

平成29年11月15日

国土交通大臣 石井啓一 様
国土交通省九州地方整備局長 増田博行 様

「立野ダム工事を一旦中止し県民に説明を」県民大集会実行委員会

立野ダムによらない自然と生活を守る会

代表 中島康

ダムによらない治水・利水を考える県議の会

代表 西 聖一

立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会

代表 田上辰也

連絡先 熊本市西区島崎 4 丁目 5-13 中島康 電話 090-2505-3880

立野ダム工事を一旦中止し、 県民に十分説明することを求める要請書

私たちは去る10月28日、熊本市森都心ホールで県民総決起集会「立野ダム工事を一旦中止し県民に説明を」を開催し、300名の参加者を得ることができました。集会で採択された集会宣言文の内容について、下記の通り強く申し入れる次第です。

昨年の熊本地震により立野峡谷では阿蘇大橋が崩落し、立野ダム水没予定地の大半が崩れました。多くの住民が、こんな危険な場所にもうダムは造られないと思いました。

重機が下りれず、ダム水没予定地まわりの土砂崩壊対策工事もできません。ダムの水位が上がれば、周辺の火山性堆積物が崩れ、湛水（たんすい）地すべりが発生するのは明らかです。付近には活断層も走り、ダムを建設するには地盤が悪すぎます。このような場所に、高さ90mもの巨大なダムをつくれば、次の世代に大きな災害源を残すことになります。

洪水のときに、幅が5mしかない立野ダムの穴は明らかに流木等でふさがります。そうなれば、洪水を下流に流すことができず、ダムは短時間で満水になり、洪水調節ができなくなります。

阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区を破壊し、917億円と言われる総事業費も大幅に膨らむことが懸念されるなど、多くの問題点が指摘されています。一方河川改修で白川の流下能力は大幅に向上し、立野ダムを建設する必要はありません。

昨年夏に国土交通省が設置した技術委員会は、わずか3回の会合で、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。国交省が選んだ7名の委員は、熊本とは縁もゆかりもない方ばかりで、国交省から天下った人もいます。国交省が選んだ委員が、国交省の見解に異議を唱えるわけがありません。

国交省は、そのような技術委員会の見解を「錦の御旗」に立野ダム建設を推し進め、住民の公開質問状にも答えず、立野ダム説明会さえ開こうとしません。

立野ダム水没予定地にある阿蘇ジオパークの貴重な地質遺産である柱状節理も、住民の知らぬ間に破壊されました。立野ダム本体予定地右岸には、さらに貴重な柱状節理が見られ、立野ダム本体工事が始まれば幅200mにわたって削られ、永久にダム本体のコンクリートに飲み込まれます。これらの柱状節理は、阿蘇の成り立ちを知ることのできる学術的にも貴重な、後世

に残すべき地質遺産です。その景観は、地元にとっても貴重な観光資源となりえるものです。

どこに何のために巨大ダムがつくられようとしているのか、ほとんどの県民は知る機会さえありません。県民の知らない間にダムができてしまえば、将来大きな禍根を残すこととなります。ダム建設が何をもたらすのか知ることが、私たちの世代に課された権利であり、責務です。国交省は「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」という姿勢を改めるべきです。

私たちは国土交通省に対し、立野ダム建設工事を一旦中止し、県民に広く説明し、県民の疑問に答えることを強く求めます。

以上